



## 東地中海地域ニュース

### パレスチナ：難民帰還権問題に関するヨルダン国王発言への反応 (4月21日付 AP)

4月20日付けイスラエル紙「ハーレッツ」は、アブドラ・ヨルダン国王がイスラエル国会議員との会談にて、「帰還権について話し合う代わりに、賠償権について話し合う必要があるだろう。イスラエルのみならず、他の裕福なアラブ諸国も同様の問題に直面している。我々は同じ問題を抱え、同じ敵に直面している」と語ったと報じた。4月21日、ハマス政治局及びPFLP-GCはヨルダン国王の発言を非難する声明を発出した。

#### 1. ハマス政治局

##### (1) 声明

- (イ)アブドラ国王の発言は危険である。ハマス政治局はヨルダン政府に、同国王発言は帰還権について言及しているのか、それとも、ヨルダンとイスラエルはハマスも含めた共通の敵に直面しているということを意味するのか、明確にすることを求める。
- (ロ)帰還権は神聖な権利であり、国際決議が帰還権を補償権と共に強調しているように、帰還権を放棄する権利を有する者はいない。

##### (2) アブ・マルズーク・ハマス政治局次長の発言

- (イ)追ってヨルダン政府は「ハーレッツ」紙の報道を否定したが、ヨルダン政府はパレスチナ人に対する補償と共に帰還権を認める明確な立場を述べていない。ヨルダン政府による「ハーレッツ」紙報道の否定は、パレスチナ難民問題に対するヨルダン政府の真実の立場に関して、多くの疑問を提起する。
- (ロ)ヨルダン政府の立場は、パレスチナ問題並びに帰還権に対するパレスチナ人の立場と融和するものではない。

#### 2. PFLP - GC の声明

- (1) アブドラ国王の発言は、ヨルダンはシオニストの第一の同盟国であることを示し、パレスチナ人民の権利及び犠牲の心臓部を突き刺すものである。
- (2) パレスチナの領土を放棄する権利を有する者はいない。帰還権は、シオニストに対する闘争の核心であり続ける。
- (3) アラブ穏健派枢軸は、降伏の文化に向けたプロパガンダを醸成することで歴史的事実の変更を試み、パレスチナ人民の戦略的同盟国であるイランを仮想敵国視することでイスラエルと妥協している。